

大阪新聞錦画

第七号

廣島縣山根友次とらふ子二入りらるる
 こととて豊家の我慢強く文明の世を
 蔑みして學問の早賤の要務を非ざと
 二子を我儘に養育せし隣家門上綱が
 長男若次は九年三月ありて上校一學
 中不怠明は八年の春學校より歸りし
 彼の明友ある友次が二子お逢ひ文字の
 書一紙序をらふらる兄弟是を人お
 よやせりや馬鹿く尻を喰へと云事なり
 あぢれ是て親おかく告る何思ひん父友次は
 黙然として溜息つきて我今日迄誤らりとハナラ
 と涙を落しニ子お逢ひ親の面目を神々と思ひ
 明日より學校お行き出精致し〜れと云ふ兄弟
 父の言を汲分て日毎上校を憎むありぬ誠や
 時代の難有れは草木も雨露の惠を浴び



蒼々たる時をあらわすかへ報知六百七号に出

修政の
錦画

幸守
板

大阪新聞錦画7号 文庫10-8066-7

